

アジア石油化学工業会議（APIC2017・札幌大会）開催結果について

1. 開催概要

- (1)日時 : 2017年5月18日(木)～19日(金)
(2)場所 : ロイトン札幌
(3)テーマ : ” The Promise of Carbon Chemistry : Pathway to a Sustainable Future”
「炭素化学の目指すもの：持続可能な未来への道筋」
(4)参加登録者数：1,357名(36か国、日本からの参加490名)

2. プログラム

5月18日(木)

ケミカル・マーケティング・セミナー

Nexant, Platts, ICIS, Tecnon OrbiChem の4社(各90分)が石油化学産業の主要なテーマに基づき、プレゼンテーションを実施。

5月19日(金)

(1)Opening Address (加盟7協会会長・式辞)

淡輪・石化協会会長(要旨)

- ・国連のパリ協定で定められた、産業革命以降の温度上昇を1.5～2.0に抑えるという目標は極めてチャレンジングであり、その達成には革新的な技術開発を必要としており、その主役となるのが化学産業である。
- ・足元の石化業界の事業環境は概ね好調だが、中期的には、米国シェールガスや中国石炭化学、中東エタンガス由来の石化製品のアジア市場への流入が予想されるため、各企業は国際競争力を強化せねばならない。
持続的に利益を上げ続けなければ、イノベーションに向けた研究開発費用を確保できず、化学に対する将来の世代からの期待を裏切ることになる。
- ・APICという貴重な場を通じて有意義な情報や知見を交換することにより、種々の変化や課題解決への手がかりを探し出せると確信する。



淡輪・石化協会会長

(2)キーノートスピーチ

エクソンモービル・ケミカル・カンパニー ニール・エー・チャップマン社長
“ Petrochemicals in the Next Decade”

(要旨)

- ・化学製品の需要は世界的な人口増加、中産階級の拡大、発展途上国での人々の都市部への集中等により、今後 10 年間で平均 4%/年拡大し、化学産業は「黄金時代」を迎えている。
- ・米国ではシェールガス由来のエタンクラッカーの新増設に 1600 億ドル(約 18 兆円)の投資が発表され、その大半が PE 生産に向けられ主要な輸出先はアジアである。
- ・石化産業はイノベーションによる、自動車軽量化や軽量包装・プラスチックリサイクルの促進を通じて社会の持続可能性の追求に貢献しなければならない。
また、国連の「SDG's (持続可能な開発目標)」等の要請に対応すべく、社会と環境に対して責任ある生産、投資等の事業活動を行う責務がある。



エクソンモービル・ケミカル・カンパニー・チャップマン社長

花王株式会社 澤田道隆社長

「「つなげる」モノづくりで未来を拓く～花王のよきモノづくり」

(要旨)

- ・イノベーションを生み出すためには、基礎研究や商品開発と消費者の声等を「つなげる」ことが重要である。
- ・花王では「基盤技術研究」と「商品開発研究」の二つの研究機能をつなげ、研究資産を最大化させる研究活動(マトリックス運営)を行っている。
実例として、「泡(水ですすぐとサッと消える泡、油を吸う泡等)」の商品開発を紹介。



花王株式会社・澤田社長

(3)分科会（Committee Meetings）

従来の7分科会に加え、新たに「環境分科会」を設けた。

各議長は石化協会員会社が担当した（副議長はマレーシア協会（MPA）が担当）。

(4)フェアウェルパーティ

7協会会長による乾杯に続き、和太鼓・尺八等の演奏と歌唱によるアトラクションが盛況のうちに行われ、参加者どうしが和やかに歓談した。



総合会議

以上